

プロトプラストの単離と融合

プロトプラストに関しては、生物部のページ、文化祭の生物部のページもご覧ください。僕は僕たちは異種の融合の段階で、失敗が続き実験が滞ったので、富山大学を訪問してアドバイスを頂き、それを元に、もう一度酵素液から見直してみることにしました。まずセルラーゼの量を五倍に増やし、溶解時間を一日から三時間に短縮しました。また酵素液の温度を三十℃に保ち、アスピレータで空気を抜かないようにしました。これは、短時間で処理し、できるだけ細胞に負担のかからないようにすることで、融合に適した質のよいプロトプラストを作るためです。材料に関しても、今まで果実を使っていましたが、葉肉や花卉に変えてみました。しかし、この条件での実験を十分行うことができませんでした。これからも結果が出るまで継続して研究を続けていききたいと思います。